

艇の違反に対する 裁量ペナルティー ガイドライン

1. 違反に対するペナルティーを決定する裁量がプロテスト委員会にある場合、その範囲はゼロ点(ペナルティーなし)からDSQ(失格)までです。ペナルティーは、このガイドラインに沿って決定されます。
2. ただし、違反が故意あるいは悪質な場合には、プロテスト委員会は規則2(公正な帆走)に基づくペナルティー(DNE)を考慮します(DNE)。
3. 裁量ペナルティーは、予め決められた標準ペナルティーを単純に与えるものではありません。ペナルティーは、一貫性を保ちながら、状況に応じて調整されます。共通した基本的な考え方は、違反に対して先ずペナルティーの出発点を決定し、次に状況に応じてペナルティーを増減するというものです。
4. ペナルティー決定の出発点は、表1と表2に与えられています。表1には、具体的な規則違反に対するバンドが示されています。表2は、表1に挙げられていない規則違反に対するバンドを決める際に用いられます。表1にバンドの範囲が示されている場合には、その範囲の中でバンドを決める際にも表2が用いられます。
5. ペナルティーは次の4つのバンドに分けられます。
 - バンド 1: 0 - 10% (中点 5%)
 - バンド 2: 10 - 30% (中点 20%)
 - バンド 3: 30 - 70% (中点 50%)
 - バンド 4: DSQ
6. まず、表1と表2を用いて、どのバンドに相当するかを決定します。決定したバンドの中点をペナルティー決定の出発点とします。次に、バンド内でのペナルティーの増減やバンドの増減が必要な要素があるか否かを決定します。
7. 以下の場合、ペナルティーは軽減されることがあります。
 - (a) 違反は偶発的であったか。
 - (b) 違反せざるを得ない事情や尤もな理由があったか。
 - (c) 競技者は、違反を自らプロテスト委員会に報告したか。
 - (d) その艇の乗員や支援者以外の者が、その違反の一因になったか。
8. 以下の場合、ペナルティーは加重されることがあります。
 - (a) 違反は繰り返されたか。
 - (b) 違反は、判断ミスや不注意ではなく、意図的であったか。
 - (c) 競技者や支援者は、違反を隠そうとしたか。
 - (d) 誰かに迷惑をかけたか。
9. プロテスト委員会は、7と8以外のことを考慮してペナルティーを増減することがあります。
10. ペナルティーを決定した後は、以下に基づき得点が与えられます。
 - (a) 得点は、DSQの得点より悪くはならない。
 - (b) パーセンテージペナルティーは、小数点以下第2位を四捨五入する。

- (c) 違反が艇の性能に影響した場合、影響した全てのレースにペナルティーが課される(ただし、規則64.4(c)に基づく場合を除き、有効な抗議がなされたレースに限る)。
- (d) 違反が艇の性能に影響していない場合、規則64.1に定められている通り、ペナルティーはそのインシデントに時間的に最も近く帆走したレースに課される。

表1 規則違反と対応するバンド

SI 4.2	陸上で発する信号		
		「D旗」コントロールに違反した	1
SI 10.2	スタートエリアの回避		
		艇や運営艇に影響を与えていない	1
		艇または運営艇を妨害した	2-3
		艇または運営艇に損傷・傷害を引き起こした	4
		違反した後に指導に従わなかった	4
	レース中の艇を妨害した(規則24.1に違反した)	4	
NoR13 SI 18.2	個人用浮揚用具(ライフジャケット)の海上での常時着用		
		RRS40にも違反した	4
		RRS40には違反しない	1-2
	個人用浮揚用具(ライフジャケット)に関する規程		
	適切な規格に準じていない	3-4	
	適切な規格に準じているが、その他の指針に適合していない	1-2	
SI 19.1	装備、クラス規則		
		セール番号を示す文字がない、または正しくない	1
		バンドを越えてセールを展開	3
		許されていないハル/フォイル表面処理	4
		限定マークのない装備の使用(計測証明はある)	3
		安全装備の非搭載、または、不適切な安全装備	3
		禁止された電子機器の使用、または計測証明のない装備の使用	4
		補正おもりがない、または、正しくない位置にある	4
		規定された許容範囲を超える装備 (RRS64.3(a)も参照)	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 艇速・性能に影響する可能性がない ・ 艇速・性能に影響する可能性はあるが、明らかでは無い ・ 艇速・性能に明らかな影響がある 	1 2 4
SI 23	無線通信		
		規則に反する無線送信・受信を行った。	1~4

表2 ペナルティーを決定するための一般的な質問

競技者(自艇の乗員も含む)や競技役員、関係者に危険を及ぼす可能性があったか？	
及ぼさなかった。可能性もなかった。	1
及ぼす可能性はあったが、及ぼさなかった、または及ぼしたか否か明らかではない。	2-3
及ぼした。	4
艇は、競技上の有利を得なかったことを証明できたか？	
有利を得る可能性もなかった。	1
有利を得る可能性はあったが、得なかった、または得たか否か明らかではない。	2-3
有利を得た。	4
スポーツや大会の名誉を傷つける可能性があるか？	
無い。	1
懸念されるが、確かではない。	2-3
ある。(プロテスト委員会は、規則 69 に基づく審問召集を検討する。)	4
損傷や傷害を引き起こす可能性があったか？	
無かった。	1
可能性はあったが、引き起こさなかった。	2-3
引き起こした。	4

支援者の違反に対する 裁量ペナルティーガイドライン

1. プロテスト委員会が、支援者の規則違反を審問で判定した場合、規則64.5はその支援者と、特定の場合には艇に対し、ペナルティーを課すことができることを規定しています。裁量ペナルティーは、予め決められた標準ペナルティーを単純に与えるものではありません。ペナルティーは、一貫性を保ちながら、状況に応じて調整されます。共通した基本的な考え方は、違反に対して先ずペナルティーの出発点を決定し、次に状況に応じてペナルティーを増減するというものです。不正行為に関しては、規則69に基づきペナルティーが決定されます。

2. 支援者に対する裁量ペナルティー

2.1 ペナルティーは次の5つのレベルに分けられます。

レベル 1: 警告

レベル 2: その支援者を1レース以上、出艇させない

レベル 3: その支援者を1日以上、出艇させない

レベル 4: その支援者を1日以上、大会会場に入れない

レベル 5: その支援者を残りの大会期間中、大会会場に入れない、および／または、規則69に基づき不正行為でその支援者を告発するなど、規則に定めるとおり、プロテスト委員会の権限内で他の処置を講じる

2. 裁量ペナルティーの基本ペナルティー

	支援艇	
NoR14	許可を受けていない支援艇が出艇した	1-5
SI21	指示された「ピンク色旗」を明確に掲揚しなかった	1-5
	用意された「ピンク色旗」を閉会式までに返却しなかった	1-5
	艇及び運営艇の運行を妨げた	1-5
	指定されたエリアを守らなかった	1-5
	救助要請の指示に従わなかった	1-5

3. 艇に対する裁量ペナルティー

3.1 プロテスト委員会は、規則60.3(d)または規則69に基づき、支援者の規則違反を理由に、艇のある1つのレースにおける得点に、失格またはそれ以下の変更を加えることによって、審問の当事者である艇にもペナルティーを課すことができます。プロテスト委員会は、本ガイドラインに基づきペナルティーを決定します。

3.2 ペナルティーは次の4つのバンドに分けられ、中点は通常の基本ペナルティーです。

バンド 1: 0 - 10% (中点 5%)

バンド 2: 10 - 30% (中点 20%)

バンド 3: 30 - 70% (中点 50%)

バンド 4: DSQ

3.3 以下の表を使用して適用されるバンドを決定します。プロテスト委員会は、ペナルティーを加重または軽減すべきかを決定するために他の質問を用いることができます。基本ペナルティーがバンドの中点にあると考えてください。

その艇は競技上の有利を得たか？	
有利を得た可能性はない	1
有利を得た可能性はある	2-3
明らかに有利を得た	4
プロテスト委員会が前の審問の後、艇にペナルティーを課すこともあると艇に対して書面で警告した後、支援者がさらなる違反を犯した。	
その違反行為により損傷または傷害が発生する可能性があったか？	
なかった	1
可能性があったが、確かではない	2-3
あった	4
その違反行為により安全性が損なわれる可能性があったか？	
なかった	1
可能性があったが、確かではない	2-3
あった	4
その違反行為がセーリング・スポーツの名誉を傷つける可能性があったか？	
なかった	1
可能性があったが、確かではない	2-3
あった	4

ペナルティーを決定した後は、以下に基づき得点が与えられます。

- 得点は、DSQの得点より悪くはならない。
- パーセンテージペナルティーは、小数点以下第2位を四捨五入する。
- 違反が競技上の有利さに影響を与えた場合、影響した全てのレースにペナルティーが課される。
- 違反が競技上の有利さに影響を与えていない場合、規則64.2に定められている通り、ペナルティーはそのインシデントに時間的に最も近く帆走したレースに課される。

3.4 以下の質問に対する答えが「はい」の場合、ペナルティーは軽減されることがあります。

- 違反は偶発的または不可避であったか。
- 違反せざるを得ない事情やもっともな理由があったか。
- 支援チーム以外の誰かが、その違反行為を犯したか。
- 支援者は違反を認め、調査に貢献したか。

3.5 以下の質問に対する答えが「はい」の場合、ペナルティーは加重されることがあります。

- 違反は、判断ミスや不注意ではなく、意図的であったか。
- 違反を隠そうとしたか。
- 誰かに迷惑をかけたか。
- 支援者はさらなる違反を犯したか。

2022年5月20日 プロテスト委員長